生活支援コーディネーター@AKITA

SCリレートーク

no.15

2026.10 発行

戸澤さん（1層SC）

所属
大館市社会福祉協議会

活動範囲
市内全域（2層SCが7名）

活動内容
第2層SCの活動を支えるための後方支援、市全域での周知活動など

経歴
平成24年入職。地域包括支援センターの社会福祉士として従事後、平成30年から地域福祉係にて第1層SCとして活動中。



✨大館市のSCの皆さん✨
「地域を元気にする活動を、お手伝いします！」

「地域住民と第2層が主役になる仕組みをつくる」

インタビュー

◆第1層は、地域と第2層を支える「土台」

―1層の役割を、協議体でどうやって説明していますか？

「大事なのは2層で、1層協議体は**“縁の下の力持ち”**です」
「住民の活動が活発化するためには**“2層の方が動きやすい環境”**が必要であり、**“1層よりも2層の方が重要”**です」
……と、説明しています。説明の時に使う図も、地域（住民、町内、活動実践者等）が一番上、1層は一番下から支える図にしています。※別紙画像1，2
1層協議体の委員には、「各地域での活動に手助けが必要なときは、手伝ってくださいね」と日頃から話しています。

―協議体の皆さんの協力体制が強いのですね！

平成30年の事業開始時、住民によるワークショップを重ねて、**《目指す大館市像》**と**《1層の構成員》**を決めた経緯があります。住民が必要だと考えた構成員なので、たとえ委員が交代しても「地域の人から選ばれた役割です」と説明していますし、目指す姿に向けて必要な活動を手伝うのは、協議体構成員として自然な流れだと思うので、普通に協力を依頼します。

◆1層SCは黒子の黒子

―資料を見ると、委員が受付・ワークショップのファシリテーターもしていますね。

そうですね。例えば、◇町内会関係者向けの情報交換会「おおだて町内会支え合いサミット」（3月開催）では、1層協議体・委員長に開会挨拶を ◇解散した町内会での話合いには、1・2層の委員の方にアドバイザーとして協力を ◇町内会長連絡協議会での事業説明では、1層委員（町内会長として出席）が「私が説明する」と張り切っていたので、説明をお願いして……―― 等々、たくさん協力していただいてます。

同じ内容でも、それを誰の言葉で話すかで伝わり方が変わりますよね。“町内会の重要性”を、社協が言うのと、《元町内会長の委員長》や《現町内会長》が言うのとでは、**重みや伝わりやすさが違う。『誰に話してもらえば、すんなり理解してもらえるか？』**と考えます。
相手にとって、《対等な方》や《仲間》が、情報を伝え、協力をお願いすると、多少説明が足りなくても伝わります。
私たちが表に出た結果、「何も分かっていない人に言われたくない」と言われ、「何かを押し付けられる」と思われ、時間をかけて説明に苦労し……と、なるよりも、**黒子として動いたほうが効率的かな**、と考えてます。

―委員さんは、“役割を認識している”から、“協力してくれる”ということでしょうか？
“協力してもらう”ことで、**“役割を認識してもらう”**機会をつくるようにしています。
体験してもらうことで、初めて自分事になっていきます。役割を持って活躍してもらうことで、さらに進んで行動してくださるようになったり、改善するための意見をもらえたり、「また一緒にがんばろう」と言ってもらえたり。
委員の皆さんに、事業の結果や効果を感じてもらうには、関わってもらうのが一番です。
委員の方自身のモチベーションにもなっているため、私たちは**『委員の皆さんを信じて任せること』**が重要だと考えています。
私たちがいなくても、支え合いの地域づくりが広がっていく ―― そうなるような働きかけをしていかなければ、困りごとを抱える方々の増加に、対応できないと思います。

◆地域の声を具体的に伝える

―と言っても、協議体の方も忙しいし、実際にお願いするのは難しそうです。
そこは、**現場を知っていることが強み**になります。 大館市では、2層SCが各包括圏域の社会福祉法人に配置されています。普段の地域の状況に加え、重層事業の支援会議に出席しているので、会議で共有される課題についても把握しています。
それらの課題や困っている方に対して『地域で解決できそう』とSCが感じたケースでは、住民の活動者に状況を具体的に伝えます。ただ「やってみませんか」と相談するのではなく、**「どんな支援が・なぜ今必要なのか」**の詳細を伝えます。 ※別紙画像3，4

◆苦労したときがあったからこそ

―戸澤さんが苦労したことをお聞きしてもいいですか。
協議体で出される意見が“行政批判”になってしまうことが何度もあり、険悪な雰囲気になるときもありました。
以前、**「行政に対して要望書を提出する」**という方向で意見がまとまってしまったときは……
行政に相談し（行政からの委託事業なので）、結果的には「報告書」と改め、提出しました。
協議体の中で意見が対立した際には、 目的や《目指す大館市像》を思い出してもらい、「ケンカしている場合ではない」と、穏やかに伝えるようにして、対処しています。
やはり、初めに《目指す大館市像》と《1層の構成員》を、住民によるワークショップで決定したことが、本当に良かった、と思います。
立上げから実践まで、すべて一貫して**“住民の思い”**を尊重し、それを**“支える”**立場で関わること――これを大切にしなければならない、と感じます。

住民主体の活動は、住民の思いがあるところでしか始まらない。押し付けるわけにはいきません。 なので、日頃からあちこちにお邪魔して、常に種まきの周知活動を続けています。
種をまき続け、どこかで芽が出てきたら、できる限り2層を中心に関わらせていただき、応援を続けます。私たちは常に、下から、**『関わらせていただく』**という態度で活動しています。

県委託　生活支援体制整備推進事業
秋田県社会福祉協議会　地域共生推進部　地域福祉推進担当
電話：018-864-2714　FAX：018-864-2742
スマホでも←読めます

別紙

＊生活支援コーディネーター（支え合い推進員）とは…各担当圏域内において支え合う地域づくりを支援する相談役。地域ごとに市から委託を受けた法人が配置しています。
＊協議体（支え合い推進会議）とは…各地域内の情報共有や困りごとの解決、ネットワークの構築のため、定期的に話合う場。事業の推進をサポートします。

画像1

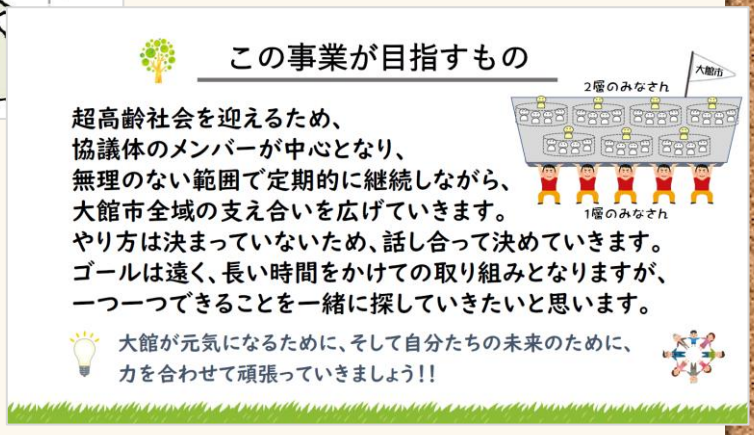
◀大館市　第１層・第２層・地域の役割

地域を一番上に置き、第１層が下から支える構造を示した大館市の役割図。

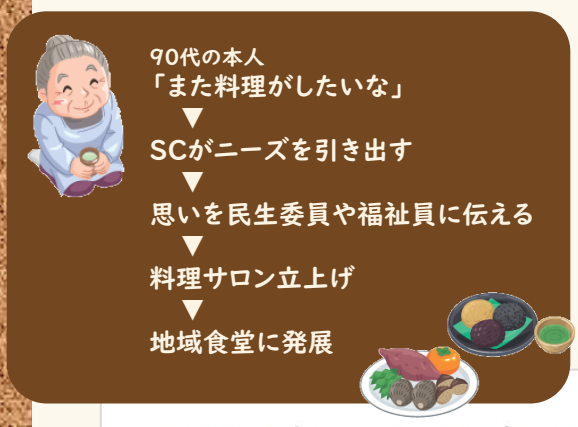
年度始めには、それぞれの役割をこの図で共有しています。



画像2



画像3



◀ 戸澤さん「重層事業の個別の困りごとを地域の活動につなげた第2層SCの素晴らしい事例です！」

画像4 ▼重層事業の説明資料

